

産業界が脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進める中、電気での加熱によって熱を効率的に利用する「エレクトロヒート技術」が存在感を高めている。1800年代と古くから続く技術ながら、高い省エネ効果と優れた温度制御性を生産現場などが評価。近年もその利用は増している。クリーン社会への切り札として注目されるエレクトロヒート技術について、活用事例や装置・機器メーカーの動向などを探る。

健康食品素材の天然カ

原料となるホタテの貝殻

を求め、産地の青森県平

エヌ・シー・コーポレーション

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

1

工場廃熱・地中熱 農業に活用

ヒートポンプで途切れなく

内町に工場進出してから約30年後の2023年、隣接地に新設した青森第2工場に導入した

ため、膨大な廃熱が生じることから、これを工場の隣に建設したヒートポンプで回収し、農業に活用する計画だ。

「平内町は夏も涼しく、かつては稲作も難しかった。他方、工場からは大量の熱が出る。これをえば農業もできるのではないか」と考えた。

「事業所概要」▽所在地「青森県平内町大字浜子字家岸8の1、017・764・006」▽主要生産品目「天然カルシウムなど健康食品素材」▽最新の年間CO₂排出量「試運転中のため算出できず」



ヒートポンプは30馬力の装置を2台導入した

「平内町は夏も涼しく、かつては稲作も難しかった。他方、工場からは大量の熱が出る。これをえば農業もできるのではないか」と考えた。

「事業所概要」▽所在地「青森県平内町大字浜子字家岸8の1、017・764・006」▽主要生産品目「天然カルシウムなど健康食品素材」▽最新の年間CO₂排出量「試運転中のため算出できず」

「事業所概要」▽所在地「青森県平内町大字浜子字家岸8の1、017・764・006」▽主要生産品目「天然カルシウムなど健康食品素材」▽最新の年間CO₂排出量「試運転中のため算出できず」

（火木曜日に掲載）